

令和5年度 調布市立第五中学校 学校経営計画（学校長 小坂 力）

学校の教育目標	
「徳」思いやりと助け合う心をもとう。「知」自ら学ぶ人になろう。「体」心と体を鍛えよう。	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	生徒の在籍数は「命の数」である。生徒一人一人の命に「生きる力」を育むことが、調布市立学校の使命と捉えているからである。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 違いを受け入れ、多様な人々と協働できる力、合わせる力、自分と他者を大切にできる力、コミュニケーション能力を育む。 ② 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等をバランスよく育む。 ③ 体力、学び続ける力、健康・安全を保持増進する力、挑戦する力を保健体育科は基より、行事等を含め全教育活動で育む。 ④ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの推進。特に「障害者理解」「ボランティアマインド」「豊かな国際感覚」の向上を目指す。 ⑤ 地域学校協働本部による地域人材と連携した特別支援教育の推進 ⑥ 生涯を見通した「キャリア教育」の充実 	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
<ol style="list-style-type: none"> ① 「話を聴く」「聴きあえる集団」 →あなたが大切というメッセージ ・毎日の授業、対話的な学びの保証 ・学級活動、学校行事 ・部活動等 「あいさつ」の徹底 ・毎朝のあいさつ ・「ありがとう」「ごめんなさい」等 やさしい言葉の五中生の取り組み ② 週1回の学校いじめ対策委員会の充実 未然防止・・・観察、対話、調査 早期発見・・・情報発信、情報共有 早期解決・・・事実確認、組織対応 「トラブルを学びに変える」 	<ol style="list-style-type: none"> ① 五中授業スタイルの確立 (校内研による) ・「ねらい」の明確化 ・ICT 機器・思考ツールの活用 ・対話的活動は4人以下 ・学習活動の確保 ・「振り返り」活動の充実 ・指導と評価の一体化 ・「お話しタイム」の充実による対話力の向上 ・5つの力の育成「主体性 協働性 相互性 問題解決力 自己表現力」 ② 調布中・七中との研究授業の実施 ・年間3回のICT 機器を活用した授業研究 ・講師を招いた研究授業 ・調布市研究推進校として、授業力向上に伴う 学力の向上 (学力調査で市の平均を上回る) 	<ol style="list-style-type: none"> ① 体育大会・合唱コンクール等 ・すべての生徒の活躍の場の確保 ・集団活動の充実 ・ベストを尽くすことの尊さの実感 ・「役割を全うする」ことの充実感 ⇒「学校には感動がある」 ・集団生活の質の向上 ② 健康・安全教育の充実 ・事故の未然防止 人的要因・・・事前指導、約束ごとの徹底 環境要因・・・組織的な整備 ・避難訓練、安全指導の充実
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 「学校が楽しい」90%以上	① 「意欲的に授業へ取り組んでいる」90%	① 「学校行事は楽しく充実している」90%
② いじめの解消100%	② 「授業は分かりやすく参加しやすい」90%	② 「環境整備は行き届いている」90%
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	5 地域人材等との特別支援教育の推進	6 生涯を見通した「キャリア教育」
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
<ol style="list-style-type: none"> ① 通級指導と連携した障害者理解等 ② 地域と協働によるボランティア活動の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ① 放課後学習教室等による個別支援 	<ol style="list-style-type: none"> ① マイキャリアノートの作成
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 違いを認め合える実感をもつ (数値なし)	① 737名の「学びの保障」100%	① マイキャリアノートの活用100%
② ボランティアマインドの育成 (数値なし)		

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> ・チームによるOJTの活性化 ・主幹教諭の管理職としての資質向上 (毎朝の主幹会や喫緊課題の解決を通して) ・適材適所の配置により、意欲と達成感をもたせ、主任教諭の学校運営意識の向上を図り、主幹教諭へ昇任させる。 ・支援・応援・指導し、全教職員の職務内容や教育実践を実現させ、生徒のために自立した教職員へ育成する。